

◆地方創生推進交付金事業

個別戦略の番号	事業名	事業概要	総事業費(円)	交付額(円)	重要業績評価指標(KPI)	当初	H29実績	H30実績	H30までの実績(累積)	R1実績(年度目標)	目標年度の目標値	目標年度	未達成であった場合、その理由
1-1	オープンデータビジネス創出事業	<p>豊橋市だけでなく東三河地域8市町村の官民が連携し、オープンデータポータルサイトから取得できるデータを充実させ活用の幅を広げるとともに、ハッカソンの開催などで民間事業者によるオープンデータの利活用を促進し、地域課題に対応した、あるいは新たな価値を付加したビジネスの創出を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンデータポータルサイトの充実</li> <li>ワークショップなどによるビジネス創出支援</li> </ul>	15,920,000	4,754,000	オープンデータのダウンロード件数	0件	12,626件	56,338件	68,964件	36,312件(500件)	1,000件	R1	達成
					オープンデータ利活用に関するワークショップ参加者数(累計)	93人	422人	1,034人	1,549人	1,822人(50人)	200人		達成
					データポータルに掲載されるオープンデータのデータセット数(累計)	53件	31件	45件	129件	24件(48件)	197件		職員研修を実施するなど、市役所を中心にオープンデータの必要性を理解してもらい取組みを進めたが、機械判読に適したデータ形式にする作業量が多く必要であるため。
					オープンデータを活用した製品・サービスや同データの活用促進のため開発された製品・サービス等の数(累計)	4件	25件	27件	56件	33件(10件)	41件		達成
1-1	豊橋ローカルイノベーション創出事業	<p>(株)サイエンス・クリエイトによる産学官金連携コーディネートのもと、「豊橋サイエンスコア」の充実したローカルイノベーション創出機能を存分に発揮し、これまでの取組みを一層深化させ新たなビジネスの創出につなげていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル工作機械を活用できる人材の育成</li> <li>地元農産物を活用した新商品の開発支援</li> <li>専属の起業支援員による商品開発や販売戦略など企画、設計、マーケティングの伴走支援</li> <li>ものづくりワークショップなどを通じた人材育成</li> </ul>	54,506,035	15,500,000	施設利用料等収入金額	1,200千円	147千円	1,290千円	1,437千円	269千円(750千円)	3,450千円	R1	メイカーズ・ラボとよはしは特定の機械に利用が偏り、Startup Garageはセミナー等での利用が少なかったため。
					施設利用者数	2,000人	3,042人	5,907人	10,949人	11,252人(1,000人)	7,000人		達成
					新規事業立上げ件数	0件	8件	13件	21件	20件(2件)	8件		達成
5-1	三遠南信地域情報活用・発信事業(豊橋市、浜松市、飯田市連携事業)	<p>三遠南信地域を枠とした情報を調査・収集・分析するとともにこれらのデータにより、オープンデータライブラリーを構築します。なお、事業の実施は、三遠南信地域の39市町村、51商工会・商工会議所、3県から構成される「三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)」が行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オープンデータライブラリー認知向上のためのワークショップ、普及・啓発に資するイベントの開催</li> </ul>	1,000,000	500,000	オープンデータライブラリー閲覧件数	0件	0件	2,078件	2,078件	11,024件(11,000件)	12,000件	R1	達成
					オープンデータライブラリーを活用した新規事業の件数	0件	0件	9件	9件	10件(9件)	18件		達成
2-1 4-2	スポーツチームと中心市街地の事業者が共同で取り組む人の流れと需要の拡大事業	<p>プロバスケットボールは市内外から多くの観客を集めることが可能なコンテンツであり、三遠ネオフェニックスを運営する株式会社フェニックスは、経済産業省が行う「地域未来牽引企業」に選定され、地域を牽引する企業として期待されている。また、本市には、豊橋技術科学大学、愛知大学、豊橋創造大学が立地しており、活力みなぎる若者が集うといった、スポーツを活用した地域の活性化を実現する好条件が整っている。</p> <p>そこで、こうした様々な人材や地域資源をつなぎ、魅力発信及び新たな魅力創出の充実を図り、スポーツを活用したまちづくりを推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツを活用したアプリでの魅力発信事業</li> <li>三遠ネオフェニックスの試合と連動したスポーツイベント</li> <li>地域資源を使った三遠ネオフェニックス応援グッズ商品・グッズ開発の検討</li> </ul>	5,303,140	2,760,000	三遠ネオフェニックスのホームゲーム1回あたりの平均入場者数	2,347人	—	-259人	2,088人	329人(330人)	3,157人	R2	三遠ネオフェニックスが地域に根付きつつあるものの、市民の中に試合を観戦する習慣が定着しておらず、またチームの成績が低迷(B1リーグ最下位)したため。
					三遠ネオフェニックスのファンクラブカード所有者によるブーストショップ消費額	22千円	—	-22千円	0千円	14千円(3,800千円)	6,000千円		ブースターカードの活用方法について周知が不十分で、浸透しておらず、効率的な周知活動を実施できなかったため。
					地域資源を使った応援グッズ等の開発数	—	—	0件	0件	0件(0件)	5件		達成
					中心市街地で実施するホームゲーム連動イベント等への参加人数	—	—	0人	0人	860人(500人)	1,000人		達成
3-2	近未来技術等を活用した「AIケアシティ」形成事業	<p>介護、健康づくり、教育、子育ての現場などに近未来技術等を活用したシステムを導入するとともに実用性を高めて社会実装を図ります。</p> <p>「AIを活用したケアプラン作成支援システム」を導入し、ケアマネジャーの事務量を軽減することができるとともに、要支援・要介護者の質の高い自立支援を促し、介護給付費の削減につなげます。また、AIを活用した健康管理アプリの開発や健康診断受診勧奨を行うことで、意識の低い人でも手軽に情報を得られる環境をつくることと、市民の健康管理への意識を高めて自主的な健康づくりを促進し、健康寿命の延伸を図るとともに、医療費等の削減を目指す。さらに、AIを活用した相談対応システムを構築や、分身ロボットを活用し、入院等で通学できない児童生徒への学習面、生活面、心の面などのケアを行うことで、児童生徒やその親の不安や悩み等を解消します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話型自動問合せ対応システムの構築</li> <li>分身ロボットを活用した院内学級等での実証研究</li> </ul>	2,884,274	1,443,000	要支援・要介護認定者数の推計値と実数との差	90人	—	—	90人	239人(30人)	150人	R3	達成
					福祉事業所において「AIを活用したケアプラン作成支援システム」により作成したケアプランの数	—	—	172件	172件	119件(200件)	1,400件		AIを活用したケアプラン作成支援システムが、ケアマネジャーの求める水準に達していないため。
					とよはし健康マイレージアプリ登録者数	4,198人	—	4,198人	4,198人	2,907人(3,140)	12,000人		新型コロナウイルス感染症の影響により、大規模イベントでの周知啓発を行うことができなかったため
					分身ロボットを活用して支援した子どもの人数(年間延べ支援人数)	—	—	—	0人	0人(1人)	5人		院内学級において、4名の対象者に遠隔授業に向けた調整を行ったものの、退院等により遠隔授業に結びつかなかったため。
合計			79,613,449	24,957,000									